



校長だより

令和8年5月1日 第4号

時を守り、場を清め、礼を正す

5月の全校集会では「時を守り、場を清め、礼を正す」の話をしました。この言葉は、明治時代の哲学者であり教育学者でもあった森 信三という人が述べられた言葉です。教育の中でよく使われる言葉であり、心を育てる上でとても大切な言葉です。

この言葉の意味を考えてみましょう。

『時を守り』とは、文字通り『時間を守る』ということです。

時間を守るということは他の人から信頼を得るためにも、また、相手を尊重しているということを相手に理解してもらうためにも大切なことです。『約束を守る』ということにも通じる言葉かもしれません。



新学期が始まって1ヶ月がたちました。まず、レディベルがなる前には姿勢を正し、心を静め、開始を待つことを心がけましょう。今すぐできることです。

『場を清め』とは、『掃除をする』ということです。

この言葉には、自分の生活場所をきれいにするとともに、『心をきれいにする』『謙虚になれる』『感謝の心が生まれる』『気がつく人になれる』といった意味が含まれます。自分の部屋や教室が汚ければ勉強する気になれないでしょう。『自分のいる場所をきれいにすると心もきれいになる』ということを感じて常に身の回りをきれいにし、美しい学校を築いていきましょう。まず、足元のごみを拾うことから始めましょう。一つ拾えば一つだけ心もきれいになります。今すぐできることです。



『礼を正す』とは、『あいさつや返事をしっかりする・服装をきちんとする』ということです。

これは礼儀の基本です。あいさつをするということは、心を開いて相手に迫ることです。あいさつすることで人間関係がよくなります。返事も同じです。呼ばれたら大きな声で「ハイ！」と返事をする。呼ばれても返事をしなければどうなるでしょうか。ぜひ、元気に、笑顔で挨拶や返事をするを心がけてください。今すぐできることです。



『服装を正す』ことも、『礼を正す』大切な行動です。その場にふさわしい、学校のきまりにふさわしい服装が大切です。それは、相手やその場に対する礼儀でもあります。

つまり、「時を守り、場を清め、礼を正す」とは、単に遅刻しないとか、清潔にすることだけではなく、人を大切に、自分を高め、関係をよくしていくことなのです。

高尾台中の全校生徒が、自覚と誇りを持ってこの三つを実践することで集団としての力を高めていきましょう。